

令和7年度 道徳教育研究協議会

道徳科の授業を「主体的・対話
的で深い学び」にしていくために

～個別最適な学びと協働的な学びの
一体的な充実に向けて～

環太平洋大学 大野光二

道徳科における主体的・対話的で 深い学びとは

道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、**道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習**を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

小・中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳 「第1 目標」より
※()内は中学校の内容

主体的・対話的で深い学びとは

道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめる。 ⇒ 主体的な学び
物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える。 ⇒ 対話的な学び
自己の(人間としての)生き方についての考えを深める。 ⇒ 深い学び

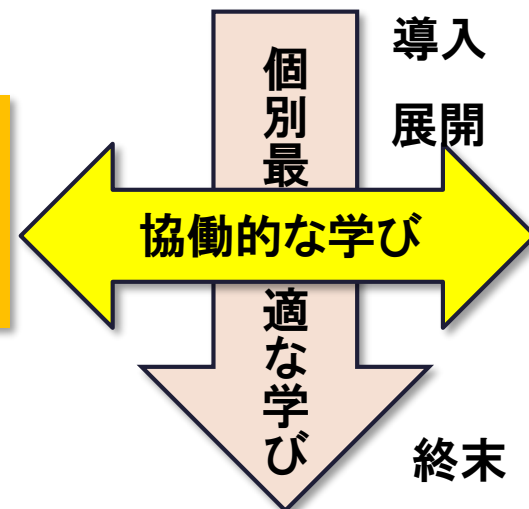
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて

＜学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料(文部科学省)より＞

これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげるようにする。

授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していくことが大切

道徳科の特質から考えると
「個別最適な学び」と「協働的な学び」
は縦軸と横軸の関係



ポイント1

導入では、一人ひとりが自分とのかかわりで学習課題（めあて）をつかむことを大切にする

こうありたいという願いと現実の自分の姿から
学習課題へと導いていく

具体的には

- ・各自の経験や考え方を出し合う中で
自分の中での行動や気持ちのずれや違いから課題意識へ
一人ひとりの受け止め方の違いから課題意識へ
- ・自分(たち)の経験や考え方と主人公の生き方の違いから課題意識へ

※ 導入の時点での、児童・生徒の内容項目にかかわる気持や考え方に触れておくと、展開での深まりが意識しやすい。

ポイント2

展開前段では、中心発問で多面的・多角的に考えられるようにする。

ア 多面的・多角的に考えることのできる発問の構成

- ・できるだけ**中心発問**に焦点化していく
(展開前段では、中心発問の他に**基本発問**を1から2程度に絞る。)

※中心発問は、一人ひとりの多様な気持ちや考えを出し合いながら、それを広げたり深めたりすることでねらいに迫ることができる発問

- ・中心発問を深めていくための**補助発問**を考える

イ 多面的・多角的に考えるための活動の工夫

ワークシート、小黒板(ホワイトボード)、短冊カード、ICT機器(タブレット等)

ウ 考えを深めていくための手順を考える

○ ワークシートで自分の考えをもつ

○ ペアやグループ、全体での話し合いで考えを広げたり深めたりする

A ペアやグループでの話し合いから全体での話し合いへ

B 全体での話し合いからペアやグループでの話し合いへ

話し合いを通して、主人公の気持ちや考えの中に、大切な価値として何を見つけたのかはっきりさせておく



これまでの自分を振り返る視点となる。

ポイント3

展開後段では、一人ひとりが自分を振り返り、これからの自分にどう生かすかということを大切にする。

○ねらいにかかわる各自の体験や気持ちの想起

○ねらいにかかわる内容が各自の心の中に占める割合

○導入で話し合った気持ちや考え方と今の気持ちや考え方との違い

主体的・対話的で深い学びの授業づくり

教材「一冊のノート」を使って <中学校>
「C14 家族愛、家庭生活の充実」の授業をする場合

2 主題設定の理由

(1)内容項目について

中学校学習指導要領 特別の教科道徳編 P52・53

C 主として集団や社会との関わりに関すること

14 家族愛、家庭生活の充実

父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。

○ 内容項目の概要

内容項目をどうとらえたらよいか。

- ・家族は、その一人一人が、誰かと取り換えることができないかけがえのない価値を有する存在である。
- ・家族を構成する成員相互の温かい信頼関係や愛情によって互いが深い絆で結ばれていることが大切である。
- ・父母、祖父母に敬愛の気持ちを深めていくことや家族の中で自分の役割を果たすことを通して、家族の一員としての自覚が高まっていく。

○ 指導の要点

指導に当たって何に留意すればよいか。

- ・家族関係を子どもの視点だけでなく、家族のそれぞれの立場になって考えられるよう、多面的・多角的に捉えることができるようにしたい。
- ・多様な家族構成や家庭環境があることを踏まえ、一人一人の生徒の実態を把握し十分な配慮を欠かさないようにする。

(2) 生徒の実態について

- ・自我意識が強くなり、自分の判断や意志で生きていこうとする自立への意欲が高まり、自分を支えてくれる父母や祖父母の言動やしつけに反抗的になりがちである。
- ・家族が自分のためにしてくれる様々なことを当然のこととして受け止めたり、家族への甘えから横柄な態度をとったりすることがある。

(3) 教材について

「一冊のノート」(「私たちの道徳 中学校」文部科学省より)

- ・祖母の引き出しに見つけた一冊のノートが主人公の心を揺さぶり、家族のかけがえのなさに気付くことのできる教材である。
- ・反省や感謝だけでなく、自分が家族を支えていこうとする意欲の高まりを意識付けたい。

※ねらい設定までの流れ

○内容項目から

↓ 父母や祖父母を敬愛する気持ちを深め、家族の一員としての自覚をもって行動していこうとする意識を高めていきたい。

○生徒の実態から

↓ 自分を支えてくれる父母や祖父母の言動に反抗的になりがちで、家族を疎ましく思ったり横柄な態度を取ったりしやすい。

○教材から

↓ 家族は深い愛情によって支えられていることに気付かせ、互いに支え合って生活していくことの大切さについて考えさせたい。

3 ねらい

家族に対してどんな気持ちで接したらよいか考える中で、家族の気持ちを受けとめながら互いに支え合うことの大切さに気づき、家族の一員としての自覚をもって積極的にかかわろうとする態度を養う。

↓

1 主題名 かけがえのない家族とともに

4 指導過程

(導入)

ポイント1

導入では、一人ひとりが自分とのかかわりで学習課題(めあて)をつかむことを大切にする

※ 個々の生徒の道徳的な問題を集約し、学習課題へと焦点化していく。

○基本発問

家族についてのアンケートの結果を見て、どんなことを思いますか。

※事前にアンケート調査を実施し、その結果をもとに話し合いをする。

＜アンケート調査(例)＞

- ・最近、家族に感謝したことがあるか。それはどんなことか。
- ・最近、家族に対して腹が立ったことがあるか。それはどんなことか。

生徒の反応

- ・家族に対して感謝の気持ちを持っている人が多いが、そういう気持ちを持っていない人もいる。
 - ・面倒だな、嫌だなというマイナスの気持ちを抱いている人も思ったよりも多くいる。
 - ・ほとんどの人が、家族に対してよい感情だけでなく、反対の感情も抱いている。
- ※ 家族に対して、感謝の気持ちだけでなくマイナスの気持ちを抱いている人も多いことから、家族との接し方について課題意識を持つことができるようにする。



学習課題

家族に対してどんな気持ちで接したらよいか考えよう。

※学習課題は、必ず板書して残しておくようにする。

(展開前段)

ポイント2

展開前段では、中心発問で多面的・多角的に考えられるようにする。

教材分析をもとに、中心発問や基本発問を決める。

(1) 中心発問を決める

※中心発問は

多様な気持ちを出し合いながらねらいに迫っていける発問

祖母と並んで草取りをしながら、僕はどんなことを思っていたのでしょうか。

自分の考えをワークシートに書く

○まず、主人公はどんなことを思っていたのか、僕の気持ちをワークシートに書いてみましょう。

グループで話し合った後、全体で話し合う

○では、僕の気持ちを出し合ってみましょう。

<謝罪>

- ・これまでつらく当たってしまった。
- ・おばあちゃんの気持ちを考えていなかった。
- ・おばあちゃんの思いに気付いていなかった。
- ・

<感謝>

- ・これまで少しでも僕たちの役に立とうと頑張ってくれていた。
- ・いつも僕たちのことを考えて一生懸命努力してくれている。
- ・おばあちゃんのおかげで、ここまで大きく成長することができた。
- ・

<決意>

- ・これからはおばあちゃんのことをもっと大事にするからね。
- ・自分にできることから、少しずつやっていくよ。
- ・これからは自分たちがおばあちゃんを支えていくよ。
- ・

(2) 補助発問を決める

補助発問

○三つの気持ちのうち、ぼくが一番強く心に抱いているのはどんな気持ちでしょう。そう考えた理由も話し合ってみましょう。

※なぜそう考えたのか理由まで話し合うことで、祖母の本当の思いを知って、これからは自分も家族の一員として互いに支え合っていこうとする強い気持ちを意識できるようにする。

家族の気持ちを受け止めながら、互いに支え合っていくことが大切だな。

(3) 基本発問を決める

中心発問をより有効に働かせるためには、主人公のどの場面の気持ちを考えさせておけば効果的か考える。

祖母が伝言を忘れたため、友達との約束を破ってしまったとき、僕はどんな気持ちだったでしょう。

- 病気でも許せない。僕たちが迷惑している。
- おばあちゃんのせいで信用を失った。
- 悪気がなくてもひどい。我慢できない。
-

※病気とはわかっていても祖母を許すことができない主人公の気持ちを押さえておくことで、ノートを読んだ後の気持ちをより深くとらえることができるようにする。

(展開後段)

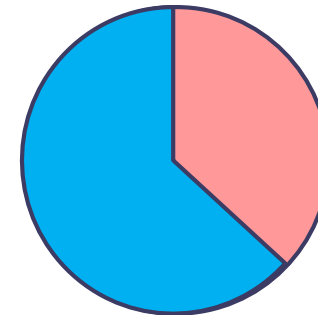
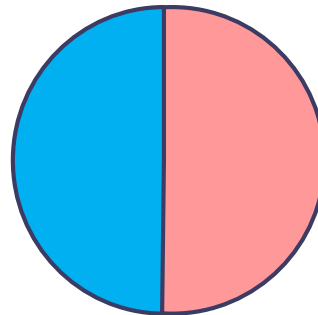
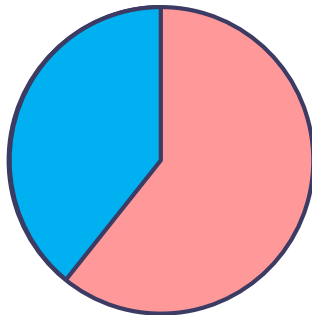
ポイント3

展開後段では、一人ひとりが自分を振り返り、これからの自分にどう生かすかということを大切にする。

○展開後段での基本発問例 その1

これまで自分には、家族の中で互いに支え合っていたという気持ちがいかにあったか振り返ってみましょう。

※心情円盤などを使って、傾向性を振り返らせることも可。



※そう考えた理由を考えさせたり、今の気持ち意識させたりすることでこれまでの経験を想起しながら、より深く振り返ることができるようにする。

○展開後段での基本発問例 その2

これまでの家族とのかかわりを振り返り、今家族に伝えたいことを書いてみましょう。

※教材を通して考えたことをもとに、一人一人が自分の家族との関係を振り返り、家族に伝えたいことをワークシートに記入する。

(終末)

※これまでの学習を整理したりまとめたりする。
道徳ノート、振り返りカード等の活用

家族の一員としての自覚をもって積極的にかかわっていききたいな。

授業後、生徒のノートにじっくりと目を通し、教師からのメッセージを書き込んで返すようにする。

評価の視点

※ 評価に当たっては、・・・一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視することが重要である。

中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 P112

＜多面的・多角的な見方へと発展しているか＞

- 話し合い活動などを通して多様な考えを出し合い、家族の気持ちを受けとめながら互いに支え合っていくことの大切さに気付くことができたか。

＜自分自身との関わりの中で深めているか＞

- これまでの自分を振り返り、家族の一員としての自覚をもって積極的にかかわろうとする意欲を高めることができたか。